

マルトミです

日頃の御愛顧に心より御礼申し上げます。



お知らせ

☆当社では申し訳ございませんが年賀状でのご挨拶を廃止しておりますので、遅ればせながら新年のご挨拶をさせていただきます。旧年中の御愛顧に心より感謝申し上げますとともに、本年もどうかお引立てのほどよろしくお願い申し上げます。

☆春を前に、ショールームの展示をミニ耕うん機中心に模様替えしました。うねたて用の作業機などもいろいろご覧いただけますので、ぜひお出かけ願います。チェーンソー・刈払機などの小型機械とその関連商品等も豊富に展示してあります。3月17日までがお得なセール期間となっておりますので、どうかよろしくお願い致します。

☆3月16・17日、恒例の春のスペシャル・デーを開催いたします。新型春農機の販売、除雪機の予約会など特典がいっぱいの2日間です。ぜひお誘い合わせてお出かけ下さい。

マルトミカレンダー (2月～4月) 赤色は休業日

2月							3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2						1	2	1	2	3	4	5	6	
3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
							31													

16・17日 春のスペシャル・デー



株式会社 マルトミ

本社: 上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com

ホームページ www.maru-takada.com

新潟県認定農業機械整備工場(大) ・ ヤンマー農業機械整備士工場 ・ ホンダ ベスト特約店

ミニ耕うん機 点検・エンジンオイル交換のご案内

お手持ちのミニティラー、ミニ耕うん機をリフレッシュしませんか。時期前に点検しておくことで、大きな故障を事前に防げ、機械の寿命も伸ばすことができます。今回、エンジンオイル交換を含むオトクな事前点検キャンペーンを実施致しますので、どうかご利用下さい。お申込みは3月31日までに、電話、FAX、メールなどをお願い致します。なお、点検・エンジンオイル交換は現地対応となります。

ミニ・ティラー(車軸耕うんタイプ) 料金 5,000円(お持込みいただくと3,500円)

※ ホンダのこまめ、こまめパンチ、ヤンマーのマイティラー、他メーカーの同等品など



ロータリー ミニ耕うん機 料金 7,000円(お持込みいただくと5,000円)

※ ホンダのラッキー、サラダ、ヤンマーのポチシリーズ、他メーカーの同等品など



<点検調整項目>

キャブレター内部・プラグ・エアクリーナー・燃料タンク内・耕うん爪・
オイルシール・ベルト関係(あるもの)・ワイヤ関係・ミッションオイル・
各部の注油・ボルト増締め・エンジンオイル交換(オイル代含む) 他

※ 点検の結果修理が必要な個所が見つかった場合は、別途修理代をお見積りさせていただきます。

機械類の点検・修理はおまかせ下さい。

ミニ耕うん機に限らず、農業機械・除雪機など、機械の事前点検・整備、
時期中の修理対応等、何でもお任せ下さい。迅速・丁寧・低料金にて
ご対応させていただきます。
また部品類も豊富に取り揃え、在庫のない場合でもすぐにお取り寄せ致しますので、ぜひ
ご利用ください。



祝 日本農業賞の大賞受賞！！ 中川卓夫さんが快挙を達成されました。

前回、牧区の中川卓夫さんが日本農業賞の新潟県最優秀賞を受賞されたことを御報告致しましたが、その後1月25日に発表された全国表彰で、なんと御夫婦で大賞を受賞されました。この賞はJAとNHKが主催し、意欲的な農業経営を行い地域社会の発展にも寄与している農業経営者や団体を表彰するもので、今回全県の最優秀賞受賞者が集まった中での最高賞受賞はまさに快挙です。中川卓夫さん、富美子さん、本当におめでとうございます。



中川さんは長年にわたりマルトミの社員を勤めた後、定年退職後に夢だったどぶろく造りを始められました。坪山の米と水で創り上げた「どぶろく卓」は、数々のコンクールでの受賞を経て、いまや全国のトップ・ブランドになりました。会社のOBの方がこのような榮譽に輝かれたことは私たちにとっても嬉しい限りで、中川さんの今後の益々のご活躍をお祈りしています。

今年の除雪機修理の状況

上越では、この数年は大豪雪、その前の数年は極端な小雪で、ここずっと普通の雪という年がなかったように思います。山ではまとまった雪が降り、平地では少なめ、海岸にはほとんど雪がない今冬は、久方ぶりの普通の冬と言えそうです。でも、普通が珍しいなんて、やっぱり異常なことですね。

そんな状況のなか、除雪機の修理は毎日次々に入ってきています。初めてご依頼くださる御客様も増え、困ったときに頼れる店として認知していただけたのかと、大変有難い思いで一同張り切って作業をしています。



1月30日の修理工場の様子です。

御客様訪問

上越市 小酒井 昇さん

本町商店街の老舗で、アコーレ、エルマールにも出店している「お茶の小酒井園」の社長で、現在本町4丁目の町内会長も務めておられます。

お店は昇さんで2代目ですが、若いときにはいろいろ御苦労もされたようです。東京での修業を終えて帰った時に始めた

特蒸し茶は、当時ほとんど知られていず、細かい茶葉の特性から急須の目が詰まり注ぎにくいという苦情がたくさん寄せられました。でもそこで諦めず、特蒸し茶に合った急須をお客様に配るところから始めて新たな味の普及に勤め、次第にそのおいしさを認めてもらえるようになったそうです。



稼働中の混合器と焙煎機

小酒井さんにはホンダのハイブリッド除雪機をお使いいただいています。自宅での御使用以上に、ボランティアでの町内除雪や通学路の確保で活躍しているそうです。そんなところにも小酒井さんの温かいお人柄が感じられるようです。



カタクリ 頸城野の春の盛りに

頸城野の春といえばなんといっても雑木林の林床をピンクの絨毯のように覆うカタクリの群生。開発などでその面積は減っているとはいえ、まだまだその美しい景色を見ることはそんなに難しいことはありません。ひとつの花をクローズアップしてみると6枚の花びらが根元で合わさり、先のほうは上の方に反返った形になっています。花びらのもとの方には濃い紫色のW型の模様が入り、下から見るとまるで鹿の子絞りの模様のように見えます。この模様は花全体の色とあわせ、蜜を求めて訪れる昆虫たちのはっきりとした目印となっているのだそうです。カタクリが地上で生活している期間はせいぜい四、五週間と大変短く、多くの春植物と同様に木々の葉の拡がりにあわせ姿を消します。カタクリの種子は2ミリほどの小さなものですが、その一部に蟻の好む物質（エライオソーム）をつけ、これを目当てに来る蟻にその種子を遠方まで運んでもらいます。分散した種子は秋になっていっせいに発芽しますが、最初は細い糸のような葉でとてもカタクリの葉には見えません。三年目以降、年を追って葉の幅が広くなり、七、八年目になってようやく一人前の花をつける株になるのです。そこまで大きくなった株は、年々地下の球根にデンプンを貯めるようになり、球根は次第に大きさを増してゆきます。カタクリの個体としての寿命は長く、ある調査の結果平均で40～50年にもなるというのは驚きです。

この球根を搗きつぶし、水さらし後乾燥したものが本物の「片栗粉」。今の片栗粉はほとんどがジャガイモから作られていますが、これは幕末に千葉県の人々が製造したのが始まりとされています。古くは水で溶いて餅のようにして食べたり、下痢の薬として用いられていたそうです。江戸時代には特に東北の盛岡藩から幕府へ献上されていたようですが、直径2,3cmに過ぎない球根からとれるデンプンの量を考えれば、製品に仕上げるまでの時間、労力は大変なものだったことでしょう。

濃淡のうずら模様のある葉と花のつぼみを摘んで、三杯酢や酢味噌あえにして食べると美味しく、よく山菜市にも並びますが食べ過ぎると下痢をするのでご注意を。

カタクリが文学の上で有名になったのは、万葉集の伴家持の歌ただ一首

もののふの八十おとめらが汲みまがふ寺井の上のかたかごの花



によっています。その「かたかご」（堅果子）がカタクリを指すことは鎌倉時代の学者によって明らかにされました。当時、役人として越中の国府に住んでいた家持は土地でカタカゴと呼ばれていた花を詠ったわけですが、いまでもカタカゴ、カタゴ、カタコなどの名が、加賀、飛騨、新潟を含む北陸地方にひろく残っています。この語源について「花が傾いた籠に似ている」などという説が流布していますが、小さな籠、片手に持つ籠のようなといった解釈で問題ないと思います。ところでカタクリといえばそれと対を成すのが春の女神といわれるギフチョウ。ひらひらとカタクリの花の間を舞い飛ぶ様子をみると、本当にこちらの身も心も躍ってしまうようです。 (ハ)